

「平成 26 年度サンシティ緑のシンポジウム」式次第

1. 主 催：サンシティ管理組合・サンシティグリーンボランティアの会

2. 開催日時：平成 26 年 1 月 19 日（日） 13 時 00 分～16 時 50 分

3. 場 所：板橋区立緑小学校体育館（東京都板橋区中台 3-27-1）

次 第

(1) 司 会：植栽環境部会 部会長 山田 貴之 氏

(2) 開会挨拶：サンシティ管理組合 理事長 山本 宏一 氏 13 時 00 分～13 時 10 分（10 分）

(3) 報 告：「サンシティの緑の活動報告」

金本 一夫 氏（サンシティグリーンボランティア世話人代表）
13 時 10 分～13 時 30 分（20 分）

(4) 基調講演①：「地球社会の環境ビジョン・3つの多様性で、自然、社会、文化を持続可能にする」

進士 五十八 氏（東京農業大学名誉教授、認定NPO法人自然環境復元協会顧問）
13 時 30 分～14 時 10 分（40 分）

(5) 基調講演②：「緑を介して素敵に加齢するまちづくり—新狭山ハイツの取り組みから」

毛塚 宏 氏（NPO法人グリーンオフィスさやま代表理事）
14 時 10 分～14 時 50 分（40 分）

(6) 休 憩：14 時 50 分～15 時 00 分（10 分）

(7) 基調講演③：「サンシティ樹林の保全活動 40 年・これまでとこれから」

有賀 一郎 氏（東京農業大学客員教授、認定NPO法人自然環境復元協会理事、環境再生医上級）
15 時 00 分～15 時 40 分（40 分）

(8) パネル討論：「次世代のサンシティの緑を考える」

15 時 40 分～16 時 40 分（60 分）

(9) 閉会挨拶：サンシティ管理組合 副理事長 弦巻 脩二 氏

16 時 40 分～16 時 50 分（10 分）

(10) 懇 親 会：緑小学校体育館より移動

サンシティ第1集会室にて開催 17 時 00 分～18 時 30 分（シンポジウム終了後）

次項「内容梗概」

「平成 26 年度 サンシティ緑のシンポジウム」内容梗概

1. 基調講演①：「地球社会の環境ビジョン・3つの多様性で、自然、社会、文化を持続可能にする」
進士 五十八 氏（東京農業大学名誉教授）

緑の都市賞の受賞を機に、緑の本質を考えたいものです。灰色の建物をみどり色にすることが緑化なら、そんな緑化はやめましょう。大阪の丸ビルでは、プラスチック製のツタをまいて壁面緑化と称しています。都市生活であっても、自然と共生したい。そのために緑とよぶ生物的自然とオープンスペースを確保しようとしているのです。自然的環境は生物多様性、社会的環境は生活多様性、文化的環境は景観多様性によってのみ持続可能になる、という基本を踏まえたグリーン・エコライフ（緑地生活）の重要性をお話ししたいと思います。

2. 基調講演②：「緑を介して素敵に加齢するまちづくりー新狭山ハイツの取り組みから」
毛塚 宏 氏（NPO法人グリーンオフィスさやま代表理事）

埼玉県狭山市にある民間分譲団地「新狭山ハイツ」では、昭和 50 年から住民総参加で緑の倍増事業に取り組み、5 年後に目標を達成。その後は緑を増やししながら、緑を育てる、繕う、誂える、さらにはリサイクルするなど、活動を多様化。こうした緑化活動を通して培われたコト・ヒトのつながりの中からビオトープの自力建設、生ごみリサイクル、まちかど広場の再整備、市内の平地林保全活動への参加など、幅広い環境改善の取り組みが生まれました。現在、“素敵に加齢するまち”をめざした「新生ハイツ 35 年プランづくり」に取り組んでいますが、その中核事業のひとつとして、これまで育ててきた環境資産の付加価値化に取り組んでいくことにしています。

3. 基調講演③：「サンシティ樹林の保全活動 40 年・これまでとこれから」
有賀 一郎 氏（東京農業大学客員教授）

約 33 年前、禿山だった中央の大きな緑地は、住民の手で植樹され大切に育てられ、今では住宅地として適さないほど自然性の高い雑木林となり、住民らのコミュニティ活動の場となっている。この森は、人為的に創られガーデニングのように自由に人が関わることで持続する「都市の森」として、「里山」ではなく「町山」と呼んでいる。

この団地の設計者でもある私は、「緑の保全回復」「コミュニティの創出」による「ふるさとづくり」を提案して以来、40 年間この団地の樹々と人々に付き合ってきた。

ボランティアの目的は「楽しみや生きがい」である。ボランティアは無償の「労働力」ではない。「楽しみや生きがい」として「緑の維持管理活動」がある。

4. 報 告：「サンシティの緑の活動報告」
金本 一夫 氏（サンシティグリーンボランティア世話人代表）

35 年前に建設されたサンシティは、東京都板橋区の中央部に位置した 12.4Ha の敷地に、武蔵野林の面影を残し、緑豊かな町山 4.5Ha に囲まれた、住居数 1872 戸、住民数約 4600 人が暮らす高層マンションである。加齢した街・人・樹林を再生し、常に美しい町山が維持されるように；

- ①森林エリア：35 年間自然を残すとして無管理で崩壊寸前の武蔵野林を本来の姿に若がえりする。
- ②公園エリア：35 年前に植樹した高木は、世代交代時期が訪れているので、現状の景観を維持しながら、将来を見据えた若がえりをスタートする。
- ③庭園エリア：日照障害および虫の侵入などの被害を防止する植栽システムと維持管理システムを構築し住民に喜ばれる住環境の若がえりを図る。
- ④加齢した樹林を管理するグリーンボランティアの若がえりを図る。
などの活動は、用具の若がえりと相まって迅速に、効率よく約 12 年間に渡って展開した。

今回の緑の都市賞内閣総理大臣賞受賞においては、平成12年から平成24年の12年間に渡る、「森林エリア」「公園エリア」「庭園エリア」の各エリアの形態と景観を維持しながら、同時に「人と用具の若がえり」を図り、樹林の約50%の若がえりを図ったサンシティの「緑の若がえり活動」が評価されました。

これから次世代のサンシティの緑を形成するにあたり、12年間の「緑の若がえり活動」を振り返りつつ、若返りを行った樹林の景観が回復した時点で、若がえりエリアを囲む樹林50%の若がえり活動を約10年かけて展開する予定である。住民に加えて多くの緑の関係者のご意見を聞き、10年後の新しいサンシティの町山を完成すべく、参加者の皆様のご意見を頂戴し、討論することといたします。また、サンシティの緑について、多くのご意見を承りますので、ご協力をお願い申し上げます。

6. 講師略歴

(1) 進士 五十八 氏

東京農業大学 名誉教授・元学長
農学博士・環境学・造園学。

これまでに日本学術会議第20、21期会員、日本造園学会会長、東南アジア国際農学会会長、日本都市計画学会会長、日本生活学会会長、日本野外教育学会会長、自治体学会代表運営委員など歴任。現在は、政府の自然再生専門家会議委員長、国土審議会特別委員、社会資本整備審議会臨時委員。また、長野県、横浜市、川崎市、三鷹市、新宿区、江戸川区の環境もしくは景観審議会会長。ほかに公益社団法人大日本農会副会長、他歴任。2007年、紫綬褒章受賞。井下賞、田村賞、北村賞、日本造園学会賞、同特別賞、日本生活学会今和次郎賞、土木学会景観デザイン賞、Golden Fortune表彰、日本農学賞、読売農学賞など受賞。

(2) 毛塚 宏 氏

昭和42年 東京農業大学造園学科卒
昭和44年～平成11年 (株)ラック計画研究所、退職後 地域計画工房モモ代表
平成11年～平成15年 狭山ささえあい福祉公社常務理事
平成15年～ NPO法人グリーンオフィスさやま代表理事
平成16年～ 法政大学現代福祉学部非常勤講師
平成20年～ さいたま緑のトラスト協会理事、埼玉県みどりの再生県民会議委員

(3) 有賀 一郎 氏

- 1973年 東京農業大学造園学科卒・サンコーコンサルタント(株)入社
- 2013年 サンコーコンサルタント(株)地域環境部門技師長、東京農業大学客員教授、街路樹診断協会理事、日本樹木医会理事・同神奈川県支部長、認定NPO法人自然環境復元協会理事
- 所有資格：技術士、樹木医、街路樹診断士、公園管理運営士、R L A、環境再生医上級、一級造園施工管理技士、R C C M、環境カウンセラー、環境教育インストラクター他
- 業務経歴：板橋サンシティ、所沢松ヶ丘住宅地、西武ライオンズ球場、船橋ららぽーと、東京ディズニーランド、東京都新庁舎外構、東京ミッドタウンなどの計画設計。国交省・東京都・神奈川県・横浜市等の樹木の診断・治療・樹木に関するトラブルの解決など。
- 著書論文等：「ルーラルランドスケープデザインの手法」、「自然再生とひとにやさしいエンジニアリング」、「ファシリテータの役割と技術」、「さくら百科：都市と桜」他多数。
- 主な表彰：日本造園学会賞、東京農業大学造園大賞、緑の都市賞、ランドスケープコンサルタンツ協会最優秀賞、日本水大賞環境大臣賞他多数。

(4) 金本 一夫 氏

- 1933年 広島県広島市生まれ
- 中央大学工学部精密工学科卒業後
- 株式会社 日立製作所に勤務（1957年から1988年）
- 空調機関係の設計開発業務および自動車用機器の販売企画業務に従事
- 自動車電機工業株式会社に勤務（1989年から1998年）
- 自動車用機器の生産・販売の海外業務に従事
- 2001年からサンシティグリーンボランティア世話人代表